

多可高校と北はりま特別支援学校 との交流及び共同学習

両校の位置関係

およそ2 km
自転車で10分



目的

同じ地域で学ぶ高校生として、時間と場所を共有し活動するなかで、互いの親睦を深め理解し合い、卒業後の社会参加における対人関係の素地を作る。

今年度の取り組み

- 4月 両校担当者の顔合わせと、年間計画等の打ち合わせ。
- 5月 北はりまにて「作業学習」
- 7月 多可高にて「数学」
- 9月 北はりま運動会にて多可高吹奏楽部「入場行進の演奏」(中止)
- 11月 多可高にて「選択レクリエーション」
- 12月 北はりまにて「地域ふれあいプロジェクト」事前学習
- 12月 周辺地域にて「地域ふれあいプロジェクト」

合理的配慮

- ▶ 活動に見通しが持てるように、活動内容や生徒実態について事前に伝える。
- ▶ 互いの出身中学校等の情報を交換し、過去のトラブル等で参加しにくい生徒がいないか確認する。
- ▶ 車いす対応や視覚的な支援を取り入れ、誰にも分かりやすい学習環境を整える。

作業学習(5月)



in北はりま

作業学習



in北はりま

作業学習



in北はりま

作業学習



in北はりま

数学（7月）



in多可高

数学



in多可高

選択レクリエーション（11月）



in多可高

選択レクリエーション



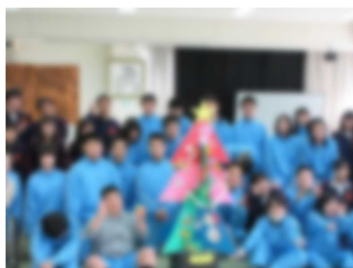
in多可高

選択レクリエーション



in多可高

選択レクリエーション



in多可高

地域ふれあいプロジェクト事前学習
(12月)



in北はりま

地域ふれあいプロジェクト事前学習



in北はりま

地域ふれあいプロジェクト



in周辺地域

成果

- ▶ 同年代の仲間と活動を共にすることで、社会性を養う貴重な機会となった。
- ▶ 他者との関わりが苦手な生徒についても、自己を理解するきっかけとなったり、集団参加の方法を工夫したりするよい機会となった。
- ▶ 生徒が主体となり企画運営を行う活動を通して、他者理解の重要性や、個性に応じた支援の方法などについて体験的に学ぶことができた。

課題と対応

- ▶ 日程調整や活動内容について打ち合わせが不十分で、直前に慌てることもあった。顔を合わせての打ち合わせを増やすなど工夫が必要。
- ▶ 両校にとってメリットのある学習になるよう意識しながらも、双方の行事や授業に支障が出ているのであれば、無理をせず実施回数を減らす選択も考えないといけないと感じた。
- ▶ 一方で、教育課程の中にしっかりと位置付けることも大切であると感じている。
- ▶ 専門的な知識や配慮が必要とされる中で、学習のテーマや題材設定が難しかった。十分な準備と連携が必要。
- ▶ 生徒の取り組みに温度差があったり、活動によっては生徒の達成感や満足度が図りにくい部分があったりした。事後指導も含めて計画的に学習を展開する必要がある。

ご清聴ありがとうございました。